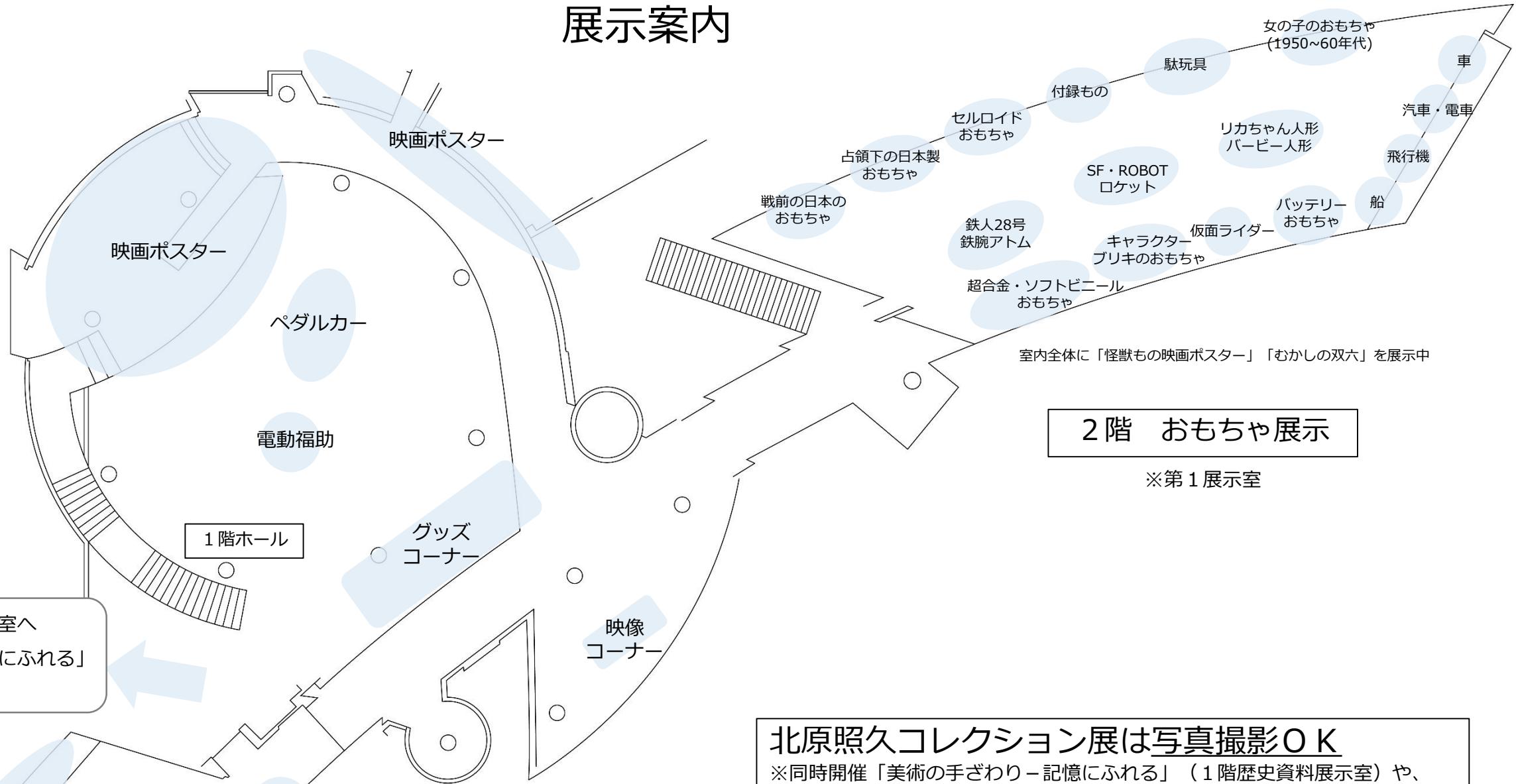


北原照久コレクション展

おもちゃ！ 広告！ 驚きと感動と心温まる物語

展示案内

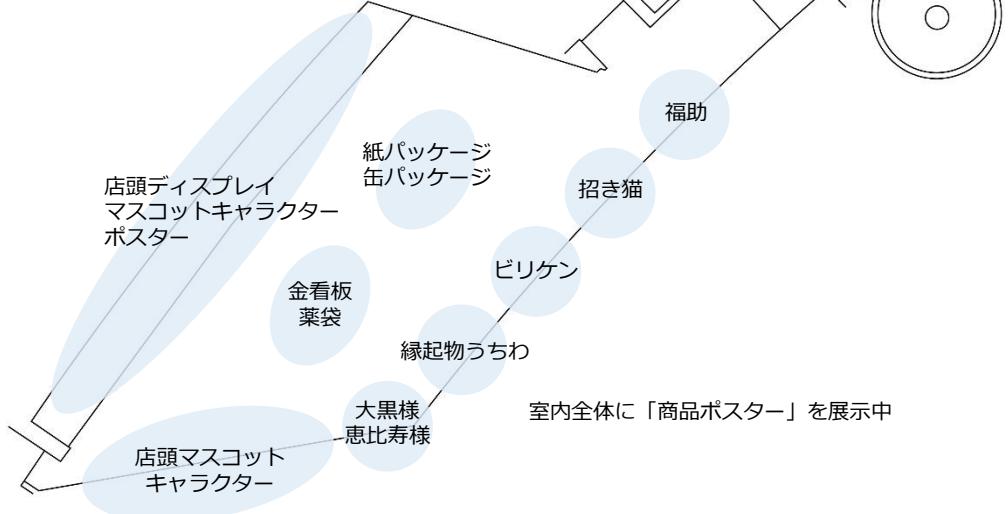


2階 おもちゃ展示

※第1展示室

1階歴史資料展示室へ
「美術の手ざわり－記憶にふれる」
開催中

北原照久コレクション展は写真撮影OK
※同時開催「美術の手ざわり－記憶にふれる」（1階歴史資料展示室）や、
展示室内の美術作品は撮影できない箇所があります。ご注意ください。



2階 広告展示

※第2展示室

おもちゃ展示

ペダルカー	1930年頃に製作されたペダルカー。こども用でペダルを漕いで動かすものの他、電動式のものもある。
超合金おもちゃ ソフトビニールおもちゃ	ヒーローもののおもちゃで、ウルトラマンなどに登場するキャラクター・怪獣たちを展示。
キャラクターブリキのおもちゃ	パーマン、仮面ライダーといった往年の人気キャラクターのブリキのおもちゃを展示。テレビや映画でキャラクターものが放映されるようになり、子どもたちに人気を博した。
仮面ライダー	仮面ライダーは、石ノ森章太郎作のヒーローマンガ。実写版も人気を博し、現在も様々なライダーが主役（平成ライダー/令和ライダー）で放送されている。今回の展示では、遊園地などに設置されていた仮面ライダーを象ったガチャガチャを展示。
鉄人28号	『鉄人28号』は、横山光輝作のロボットマンガ・アニメ。1956（昭和31）年に発表され、手塚治虫作の『鉄腕アトム』と二分する人気を誇った。ここでは、様々な鉄人28号のブリキ製フィギュアなどを展示。
手塚治虫と鉄腕アトム	『鉄腕アトム』は、手塚治虫作のマンガ・アニメ。1952（昭和27）年に発表。『鉄人28号』とともに、日本のマンガ・アニメ史上に誇る歴史的な一作。鉄腕アトムのブリキ製フィギュアその他、手塚治虫が『バンビ』を描いた原画などを展示。
SF・ROBOT・ロケット	SFやロボットに関するブリキのおもちゃなどを展示。ゼンマイ式で動き、口から煙を出す《スモーキングロボット》などを展示。
リカちゃん人形	1967（昭和42）年に誕生し、現在でも大人気の人形。初代のリカちゃん人形の他、様々なリカちゃん人形や、北原照久プロデュースによる、横浜・元町のブランド品をまとった「元町リカちゃん」も展示。
バービー人形	バービー人形は、1959年にアメリカで誕生した女の子の人形。繊維産業が盛んで、人形と服をまとめて発注できる事から初期のバービーは日本で生産されていた。専門デザイナーが考案した約100種類の服装などで大人気となった。日本での販売は1962（昭和37）年から。宇宙服をまとうなど、様々な格好のバービーが登場している。
バッテリーおもちゃ	1950～60年代にかけて多く生産され、それまでのゼンマイやフリクション式のおもちゃよりも、モーターを使った複雑な動きができるのが特徴。
船	客船、貨物船の他、潜水艦や戦艦など、様々な種類の船のおもちゃが作られた。ゼンマイや電気で動き、汽笛を鳴らしたり、煙突から煙を吐くものや、ろうそくの火力で動く《ポンポン船》なども登場した。
飛行機	1950年代に作られたブリキの飛行機のおもちゃを展示。飛行機のおもちゃが世界中から日本に注文があり、様々な種類の飛行機がブリキ工場で作られた。
自動車・電車	1950年代頃のおもちゃを中心に展示。実物を模したおもちゃや、カラフルな配色のおもちゃなど、様々な種類の自動車・電車のおもちゃが作られた。
車	コレクションの多くが「日本製」で、戦後の主要産業の一つとして輸出されていた。キャデラック、スカイラインなどの往年の名車が一堂に会している。バンダイ赤箱シリーズなども展示。
女の子のおもちゃ	ホットケーキが実際に焼けるとして人気を誇った《ママ・レンジ》をはじめとした往年のおもちゃを展示。1950～60年代当時のおもちゃは主に海外向けの為、ここに展示している冷蔵庫などのおもちゃは当時のアメリカ生活をイメージして作られている。
駄玩具（女の子）	ぬり絵、紙の着せ替え、セルロイド製の小物、おもちゃの腕時計などを展示。色鮮やかなおもちゃが多く、「ごっこ遊び」を楽しむおもちゃが中心。
駄玩具（男の子）	駄菓子屋や小さなおもちゃ屋で売っていた安価なおもちゃ。日光写真、めんこ、かんしゃく玉、いたずら玩具などを展示。
付録もの	雑誌『少年倶楽部』などの付録を展示。1932年に建設されたニューヨークのエンパイア・ステートビルなどの組み立ておもちゃなど、当時の様子がうかがえる。
セルロイド製おもちゃ	セルロイドおもちゃは、日本で戦前から作られており、輸出産業として発展していた。精巧な作りで、表情や衣装の精密さに驚かされる。セルロイドとは「ニトロセルロース」と樟脳の合成樹脂。形成がしやすいが、一方で燃えやすいという特徴がある。
占領下の日本製おもちゃ （オキュパイドジャパン）	占領下の日本でアメリカ向けに製作されたブリキのおもちゃ。日本人ならではの精巧な作りで、戦後の輸出産業として重要な役目を持った。
戦前の日本のおもちゃ	明治時代以降、様々なおもちゃが日本で作られた。第一次世界大戦後は、ドイツに代わって日本のおもちゃが世界中に広まった。ブリキ製の市電が周回するおもちゃや、ゼンマイ式のおもちゃなどを展示。
むかしの双六（すごろく）	戦前戦後の様々な双六を展示。当時の世相や、有名人物を紹介した双六などがある。

広告展示

電動福助	頭が上下に動き「福助足袋」の表示が光る。（本展では作動しませんが、動画で楽しむ事ができます。）
映画ポスター（フランス製）	フランス語で書かれた映画ポスター。映画に出演する名優たちを描いている。『007』シリーズや、『戦場のメリークリスマス』など、世界的に著名なタイトルの映画を中心に展示。
福助	現在の福助は、福助足袋のマスコットとして知られるが、以前は膝に手を揃えて置いていた。日本を代表するラッキーゴッド（商売の神様）。この展示では、燕尾服や洋服をまとった福助も展示。
招き猫	江戸時代に誕生した「千客万来」「開運招福」の御利益に掲げる猫。東京・世田谷の豪徳寺などが発祥と言われている。
ビリケン	ビリケンは、アメリカの芸術家・フローレンス・プリッツが「夢の中で見た神様」をモデルに製作。「幸福の神様」として世界中に知られ、日本では、大正時代に七福神にビリケンを加え八福神とされる事もあった。大阪・新世界で1912（明治45）年に初代が設置されたという。この展示では正座をしているビリケンもある。
縁起物うちわ	冷房が普及していなかった時代に涼をとる代表的なものとしてうちわが重宝された。商店で配るようなうちわには、幸福を招く大黒や恵比須が描かれている。
大黒様・恵比寿様	七福神の内の2柱で、大黒はインドの恐ろしい神が「厨房の神」として日本に伝えられて、大国主と融合し現在の姿になったと言われている。恵比寿は、漁業民の信仰する神としてあがめられていた。
店頭マスコットキャラクター	ペコちゃん人形や、ビクターのニッパーなど、有名なマスコットキャラクターを展示。
缶パッケージ	丈夫かつ長持ちする為、長期間で消費する商品のパッケージとして使われていた。形状や色などが華やかで一工夫されたものが多くあった。
紙パッケージ	お菓子のパッケージなどで使用されているものが多く、特に戦前から1950年代の紙パッケージのものは、絵やコピーが詳細なものが多く出回っていた。
金看板	薬の商品に使用された金色のきらびやかな看板。お店のカウンターなどに置かれていた。
薬袋	家庭常備薬のパッケージ。薬効の表現に様々なイラストがあしらわれており、非常に個性的。
マスコットキャラクター	1960年代に日本が高度経済成長に入り大量消費社会が出現。ソフトビニール製のマスコット人形が多く作られ、店頭で飾られてメーカーの販促品として利用されていた。
店頭ディスプレイ	販促用商品として使用されたもので、ロート目薬の販売什器では鏡が用意されていたり、アイデアル折畳洋傘などのモーションディスプレイなども登場した。
ポスター	商品販売の為に当時の有名デザイナーなどが起用されていた。《赤玉ポートワイン》など、一斉を風靡したポスターも展示。